道東ブロックトレセン U-12 交流試合　報告書

期日　平成 23 年６月４日
会場　中標津町運動公園

１．参加選手（１３名）

佐藤聖椰（T.WEST）、山本昂汰、西澤雄太（ドリーム）、川端一輝、野瀬龍世（Ｒシュペルブ）
土井雅也（遠矢）、荒井裕斗、鈴木泰輝（愛国）、山田哲大（コンバット）、八重樫健吾（朝陽）
川原大輝（フォルテ）、田村史（鳥取）、浅井一樹（SSM）

※ 夏季トレセン参加 23 名から 15 名を選抜（体調不良で２名不参加）

２，スタッフ

後藤雅宏、中瀬満、高橋雄一（U-11 と併催）

３，はじめに

当初 15 名で参加予定であったが、２名の体調不良で不参加となり、FP が 11 名で 20 分ハーフを戦うことになった。また、低温の続く釧路と違い、当日は暖かく釧路の選手の中には暑さと疲労から精彩を欠くプレーが見られる場合もあった。十勝の不参加により U-13 選手と対戦する機会を得ることができ、貴重な体験とすることができた。

次回の BTC から２週間が経ち、５月のトレーニングの成果を確認する場となった。トレーニングの重点はゴール前の攻防で、その点を明確に課題として選手達にも伝えた。

なお、８人でのフォーメーションは 3-3-1 を基本とし、相手の陣形に合わせて変化していった。

４，対戦結果

ＶＳ	根室	９	－ ０	○
ＶＳ	網走　Ｂ	０	－ ４	●
ＶＳ	網走　Ａ	１	－ ０	○
ＶＳ	根室 U-13	４	－ ０	○

5，成果と課題

＜成果＞

○ゴールを奪うイメージの共有

⇒ ある程度のイメージの共有を行うことができた。自分のポジションにこだわることなくスペースを利用したり、無謀な攻めからボールを奪われることが少なくなった。さらに早く判断できるように求めていきたい。

○ GK を含めたビルドアップ

⇒GK の FP としての攻撃・守備の参加が多く見られた。DF ラインと GK の前のスペースを埋めたり、ゴールキックから GK と FP で連携して確実にボールをつなげるなど、意識が高まってきている。

○守備の個人戦術・グループ戦術・プライオリティの確認

⇒ ボールをいつ奪うのか、どのように奪うのか、またオフ・ザ・ボールの時の守備のプライオリティを確認したことで、効果的にボールを奪い、攻撃へと移ることができた。

＜課題＞

●正確なボールポゼッション

⇒ 中盤でのボールポゼッションの意識は高いものの、ハイプレッシャーになるとあわててうまくつないでいけない場面もあった。また、ボールの置き所が悪く、その状態でパスをつなげるためにトーキックになってしまったり、インステップキックなどの精度も悪くなってしまった。

□基本的な技術のドリルで求めるものを高くするトレーニングをさらに継続する。プレッシャー下でもインサイドキック、ボールコントロールの技術を高める。

●準備とアクション

⇒ パスを引き出すためのアクションとその前の準備への意識が低い。足下へのパスになることが多く、そこからインターセプトを招くこともあった。

□ボールワークのようなトレーニングから発展したトレーニングまで一貫してアクションを求めていきたい。

●グループ戦術の共有

⇒ グループ戦術に関する理解度の差がある。

□中盤までの攻防に重点をもってトレーニングを行っていたことが原因と考えられる。トレーニングを工夫しながら実施していきたい。

●観ること

⇒ 他の課題とも共通する部分があるが、観ることの習慣化が十分とは言えない。プレッシャー化では、観るための時間を作ることができずに、判断することができない場合があった。

□どんなテーマでも観ることを keyfactor としていきたい。また、いつ、何を観るのかということも具体的に伝えていきたい。

６，全体講評

前回の BTC を終え、課題としてきた点の改善を水曜トレセンデーのトレーニングで行ってきた。なにより重点としていたのはゴール前のオフェンスであった。オフェンスのプライオリティを確認しながら、フィニッシュに確実につなげていくためのトレーニングを行ってきた。その成果はある程度確認できたものの、ハイプレッシャーではその判断するための時間を奪われてしまうことがあった。改善するための第一点は課題にもあげたように観ることにあると考える。習慣づけを徹底していくのと同時に、ボールに寄って時間を作ったり、オフザボール時の準備でかけひきを行うなど、相手を意識したトレーニング環境に改善していきたい。

また大きな成果の一つとして、選手の中の問題意識も高まってきていると感じる。トレセンノートの導入で、各交流大会での反省やコーチからのアドバイスや求めていきたい点を文字にして整理することで、課題とする点や疑問を感じる点が明確になってきている。実際にハーフタイムや試合間に選手からコーチにプレーに関する質問が増えてきている。課題意識が高まることで、さらに成長していけるのではないかと考える。

この BTC の参加で、トレセン参加者が全員 BTC に参加したことになった。マッチからトレーニングにフィードバックしマッチに還元する流れがこの 2 回で確立されたと考える。大きな時間の流れからの M–T–M による課題の確認と改善が行われてきている。9 月までの残り 3 回も計画的に進めていきたい。

道東各地および U-13 トレセンとの交流大会となり、前述のような課題や成果を発見することができた。北海道という広い地域の交流ということで、さまざまなデメリットもあるが、これからもプレイヤーズ・ファーストの視点で BTC に参加していきたい。

最後に本大会に参加するにあたり、多大なるご協力をいただいた各チーム関係者の皆様、日々のトレーニングをさせてくださった保護者の皆様に厚く御礼申し上げます。今後ともトレセン活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

文責：釧路トレセン６年担当　後藤雅宏